

「地球人講座 in シドニー」を開催 2017年2月24日

【JAXA 宇宙飛行士 野口 聡一さん 講演】

JAL 財団では、第一線で活躍する講師による「地球人講座」を、2003 年度より国内外各地で開催しており、第 22 回となる今回は、JAXA 宇宙飛行士の野口聡一さんにシドニーの日本人学校、現地の女子高 Pymble Ladies' College、日本人会の 3 か所で講演を行っていただきました。

日本人学校では約 300 名を対象に「宇宙へおいでよ」をテーマに、Pymble Ladies' College では、約 750 名を対象に「持続可能な宇宙への協働」をテーマに英語で、日本人会では約 100 名を対象に「アジア太平洋地域における宇宙飛行士の国際協力」をテーマに語っていただきました。

講演では、2 回の宇宙飛行の映像を通して、2005 年にスペースシャトル「ディスカバリー号」による STS-114 ミッションの船外活動の様子や、2009 年に約 5 か月半国際宇宙ステーション (ISS) に滞在の「きぼう」日本実験棟ロボットアームの子アーム取り付けや実験運用の様子をお話しくださった。それぞれ異なるテーマのもと、宇宙の魅力や宇宙における国際協力のお話や国際宇宙ステーション (ISS) での任務・生活の紹介の他、宇宙飛行士なるための資質や ISS における活動の世界への貢献、NASA の最新のビッグニュースについてのお話しにだれもが聞き入っていました。

講演後の質問コーナーでは、「宇宙にいて辛いことがありますか。」「宇宙から帰ってきたとき、体の感覚はどんな感じでしたか。」「国際宇宙ステーションには、最高何人くらい乗れますか。」「ISS の日常生活に慣れる事についてどのように思いますか？特に水の再利用や一日に日の出を 16 回経験することについて教えてください。」など、子供から大人まで、たくさんの幅広い質問に、一つ一つ丁寧に答えてくださり、参加された皆さんへ多くに感動と学びを与えてくださいました。





宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙飛行士1965年 神奈川県横浜市生まれ。
2005年にスペースシャトル「ディスカバリー号」によるSTS-114ミッションに参加し、3回の船外活動を実施。2009年から約5か月半国際宇宙ステーション(ISS)に滞在し、「きぼう」日本実験棟 ロボットアームの子アーム 取り付けや実験運用などを担当された。
(2017年2月現在)